

〔石垣大志議員 登壇〕

○4番 石垣大志君 おはようございます。4番議員、石垣大志でございます。本日6点ほど、農業について。あと総務のほうにも1点ほど再質問で質問させていただけたらと思います。それでは早速始めさせていただきます。

大きい1番、さまざまな連携・情報提供で農家支援を。(1)農業政策として、担い手不足、新規就農者の確保、耕作放棄地解消、作物の災害対策等のさまざまな問題にこれからも対応していかなければならないが、災害対策として農水省が実施する農業用ハウスの強化緊急対策事業において、老朽化したハウスの補強や防風ネット設置等の補助メニューがあるが、本町の対応はどうか。(2)生育中の生理障害や感染病、害虫被害など栽培に関する植物の情報が求められている。生産者に作物の生理障害診断、病虫害予防やハウス内の環境調査、土壌診断等の診断結果の活用方法を含め、農水省が公開を始めた技術データ(アグリサーチャー)を活用した情報提供ができないか。(3)農業のさまざまな課題解決においてJA、県中央卸売市場(青果部)(花卉部)との連携はとれているか。(4)町公式のYouTubeチャンネルを活用した本町特産品(農産物)のピーアールしてほしいがどうか。(5)情報発信サイト、決済手段、資金調達、プログラミング教育、スマート農業などのIT技術を沖縄県内5自治体と情報技術関連企業が連携して、IT活用による地域課題解決を目指す地方創生プロジェクトCloudON OKINAWAに本町も参画してはどうか。(6)糸満市は同プロジェクトにおいて農作業支援として圃場内の温度照度をスマホに知らせる通知システムの実証実験を開始し、賞も受賞している。圃場内の情報がデータで見れる温湿度管理システムの導入又は実証実験を含めた検討をしてはどうか。以上、6点答弁をよろしく申し上げます。

○議長 知念富信君 副町長。

○副町長 国吉真章君 皆さんおはようございます。それでは質問事項1点目のさまざまな連携、情報提供で農業支援を。(1)についてお答えします。農業用ハウス強化緊急対策事業が平成30年度第2次補正から、令和2年度までの3年間事業化されております。本町においても農家からの要望があれば、国、県へ事業計画を提出して事業支援をまいります。

(2)についてお答えします。現在、新規就農者の技術指導等は沖縄県の農業改良普及センター及びJAの営農センターが中心に行っております。普及センター及び営農センターと連携し、今回提案のアグリサーチャーの情報も活用してまいります。

(3)についてお答えします。県中央卸売市場との連携についてはJAを通じた取り組みを行っているため、町と県、中央卸売市場において直接連携した取り組みは行っておりません。しかし、町とJAが連携し、各部会、各協議会での研修会や現場視察などを行い、課題解決に向けてJAを中心に組みんでまいります。

(4)についてお答えします。町公式のYouTubeチャンネルのガイドラインが策定され

ましたので、今後、ガイドラインに基づき拠点産地品目のピーアールを検討してまいります。

次の（５）と（６）については関連がありますので、あわせて答弁いたします。農業の課題解決のためにＩＴ技術の活用ができるため CloudON（クラウド・オン）おきなわの参画及び温湿度管理システムの導入と実証実験を検討してまいります。以上であります。

○議長 知念富信君 ４番 石垣大志議員。

○４番 石垣大志君 ありがとうございます。順次、再質問をさせていただきます。まず１点目の農業ハウスの強靱化対策事業でございますが、このほかにも園芸施設共済の大幅割引とか収入保険制度等も新しい補助メニューが出てきておりますので、この辺の生産者からの相談があれば是非とも対応していただけたらと思います。この質問は終わりたいと思います。

次に２点目のアグリサーチャーでございますが、ベテラン農家には余り必要がないかと思われませんが、新規就農者の方々や品目の変更を検討している農家さんの肥培管理や品質、収量向上に活用できるのではないかと考えております。２０１５年の統計ではございますが、農林業センサスを見ましても本町の野菜農家 ８３の経営体 ３７ヘクタールと、非常に多くて、ハウス栽培ではキュウリやトマト等の農家も見受けられます。マンゴー等の果樹農家も ４２の経営体、１４ヘクタールとさまざまな栽培農家が見受けられ、生理障害や生育診断、害虫対策、天敵活用など、さまざまな研究データがスマホで見られますので、是非とも利活用をしていただきたいと思います。そこで今後、このアグリサーチャーをどのように活用するか、見解のほうをお聞かせ願いたいと思います。

○議長 知念富信君 産業振興課長。

○産業振興課長 金城克彦君 今、答弁がありましたとおり、新規就農者については、議員のおっしゃるとおりやっぱり技術的な支援が必要だと思います。これは農協と営農センターを中心に行っています。答弁にありましたとおり、このアグリサーチャー、私たちも提案されて初めてというか、情報を知ったので、中身を見ますと、とてもいいシステムだと思っていますので、今度の農協と普及センターとも連携して指導もするんですけども、またそのベテランの方にも情報提供をするということで、やっぱりこれは周知ができていないということですので、町のホームページからアグリサーチャーへのリンクができないものかということで、今アグリサーチャーのほうにリンクしての許可を得るような手続をとっております。また、今回資料でいただいたスマホのＬＩＮＥのほうもご提示をありがとうございます。それについてホームページ等で、こういう形でありますという形で両方とも周知してこの情報を生かしていきたいと思います。

○議長 知念富信君 ４番 石垣大志議員。

○４番 石垣大志君 ありがとうございます。アザミウマとかコナジラミ、ウリ科のモザイク病とか、トマトに関しましたらオオカハマキ病等のウイルス性の病気に悩まされている生産者の方々もおられると思いますので、適切な肥培管理と病害虫予防に、是非ともこのアグリサーチャーを活用していただけたらと思います。生産者に喜ばれる情報提供になれば

と思っております。本日、配布した資料でアグリサーチャーのLINEのほうでも活用できるようになっております。しかもチャットボットを活用した対話型検索システムを導入しております、LINE上で会話形式にて情報収集ができるようになっております。例えばですね、LINEのトーク画面でトマトと打ち込みますと、トマトの情報が出てくるというふうになっています。カボチャと検索するとカボチャの情報、キュウリと検索するとキュウリの情報。害虫対策や天敵活用事例等の栽培に関する情報が出てくるようになっております。この辺も生産者の方に広く情報発信をしていただけたらと思います。

次に3点目の中央卸市場と直接の連携はしていないとのことですが、競りや相對契約等の市場へ出荷している農家もおられます。加工業者とのマッチングや講習会等、需要のある品種情報、JAとの連携はもちろんのことですが、沖縄協同青果との連携もできれば生産者の方々の選択肢もふえるのではないかと考えております。この辺、中央卸市場との連携、そんなに難しく考えないで役場の職員が、例えば市場の人間の携帯電話番号を知っていると、本当につながる部分で連携がとれたらもっと変わってくるのかとも考えておりますので、改めて見解をお聞かせ願います。

○議長 知念富信君 産業振興課長。

○産業振興課長 金城克彦君 中央卸市場は、県の管轄になっておりまして、今までは直接町とやるということはなかったです。答弁にもありましたように、JAを通してやっていたんですけども、議員の提案のとおり交流を深めて直接的には、県でするので町が支援するということはできないかもしれません。情報提供とかはお互い持ちながらやるのがいいことだと思いますので、そういう機会をできるだけ持つような形で取り込んでいきます。

○議長 知念富信君 4番 石垣大志議員。

○4番 石垣大志君 ありがとうございます。この辺のJAとの連携、中央卸市場との連携を深めていただいて、農家の方々の支援、バックアップになるような行政態勢をつくっていただきたいと思っております。

続いて、4点目、ユーチューブガイドラインが策定されたとのことですが、ユーチューブの活用ができればユーチューブの動画チャンネルの概要欄等にURL等をそのままコピーアンドペーストでLINE公式アカウントのほうにも張りつけて、ユーチューブとLINE公式アカウント、ホームページ等、さまざまな連携がとれますので、この辺の共有も深めればLINEの公式アカウント、今500名行かないぐらいですか、なので、登録者数の増加にもつながると思っておりますので、この辺の情報発信の部分で答弁をいただけたらと思います。

○議長 知念富信君 総務課長。

○総務課長 新垣圭一君 お答えいたします。ただいまの石垣議員のご提案に関しましては、関係課も含めて連携、調整しながら積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

○議長 知念富信君 4番 石垣大志議員。

○4番 石垣大志君 ありがとうございます。是非ともユーチューブを有効活用していた

だいて、情報発信に努めていただけたらと思います。

続いて5点目のクラウドオンおきなわでございますが、この温湿度管理の導入が可能になれば、生産者の方々の出荷物の収量アップ、品質の向上で農家の所得向上にもつながると思います。是非とも前向きに取り組んでいただきたいと思います。このクラウドオンおきなわでございますが、農業以外にもホームページの作成、ネットショップ解説、クラウドファンディングを活用した予算の確保、スマホ等に対応した決済手段の提供など、地域の方々がすぐ活用できるITサービスを用意して支援しております。さらに地域の人材育成の部分では宮古島市のほうはプログラミング教育の仕組みづくりを目指して、教育委員会と地元企業が連携して、総務省が実施する若年層に対するプログラミング教育の普及促進事業の公募に参加し、沖縄ブロックとして選定もされております。宮古島市のほうは、将来IT産業が宮古島の重要産業として発展するように人材育成支援にも取り組むとしております。このクラウドオンおきなわでございますが、できる限り税金に頼らずに、クラウドの力を持って地域の活用を目指すとのことでございます。内容も非常に幅広く、財政状況の厳しい本町においては、本当にメリットの多いプロジェクトだと思いますが、改めてこの参画について答弁いただけたらと思います。

○議長 知念富信君 産業振興課長。

○産業振興課長 金城克彦君 このシステム、非常にいいと私も思います。早速ですけれども、提案のありました糸満市のほうへ問い合わせをしましたらいろいろとお話がありまして、情報提供をいただきまして、今、実際、担当者とクラウドオンの中身はどういう形で手続をとればいいのかということで、日程調整をする予定で今予定を入れていて、前向きに検討して進めていきたいと思っております。

○議長 知念富信君 4番 石垣大志議員。

○4番 石垣大志君 ありがとうございます。このクラウドオンおきなわは是非とも、個人的にはすぐにでも参画していただいて、本当にいろんな分野で活用できるものだと思っておりますので、今現在は、宮古、石垣、竹富、沖縄市、糸満市とまだ5自治体でございますので、この辺に南風原町も参画していただいて、今後の地方創生に活用できればと思っております。今回、6点ほど農業関連の質問でございましたが、今後も農業政策に私自身も貢献できるように、頑張ってもらいますので、産業振興課の皆様も頑張ってください、一緒に農業活性化に向けて頑張っていきたいと思っております。ちょっと早いですけれども、一般質問とさせていただきます。ありがとうございました。